

雨の日の髪の毛

東洋産業だより

Vol. 173
2018年6月号

はじめとした、天気の良い日が続く時期になりました。特に雨の日は、セットをしても髪の毛がうまくまとまらないと感ずることはないでしょうか。この原因は、髪の毛のダメージと湿気に関係があります。

毛髪は、図3のような構造になっています。中心部にメデュラ(毛髄質)があり、動物によって大きさや形状が異なり、ヒトの毛髪ではあまり発達していない組織です(図1、2)。また、毛髪の大部分はコルテックス(毛皮質)で占められており、水分や栄養を保持する働きをします。この周りを数層のキューティクル(毛小皮)が覆っており、内部を保護しています。

毛髪の表面であるキューティクルが剥がれることを、毛髪のダメージと呼び、ヘアカラー、パーマ、紫外線、ブラ

ッシング、ドライヤーやヘアアイロンなど、日常的にある様々な要因によって生じます。キューティクルは水をはじく性質があるため、剥がれた部分からコルテックスにため込まれた水分や栄養が出ていき、スカスカの乾燥した毛髪になります。特に雨の日は湿気が多く、その水分がキューティクルに侵入してため込まれます。水分がため込まれた部分は膨張することになりが出来ます。キューティクルの剥がれは均一ではないため、水分の入り方にムラができ、毛髪一本一本が異なった形状になって髪の毛がまとまらなくなるのです。剥がれたり、一度損傷したキューティクルは再生しません。また、うねりのできた毛髪は、さらに

キューティクルが剥がれやすくなり、す。つまり、とにかく髪を丁寧に扱い、キューティクルを傷つけないことが重要です。今からできるダメージを与えない毛髪の扱い方として、例えば、洗髪の時や髪を乾かす時に、「髪を極力こすらないこと」があります。また、熱によってキューティクルは剥がれやすくなるため、ドライヤーで髪を乾かした際は、「冷風を使ってキューティクルを固定すること」も効果的です。

湿度が上がると、蒸れて不快感が増し、無意識に頭や身体をかくことで、着衣の乱れが増える時期でもあります。このことによって、ふけや毛髪が落ちやすくなります。特にダメージの蓄積された毛髪はもろく、切れ毛を生ずる場合があります。注意が必要です。毛髪混入の予防の一環として、毛髪のダメージにも気を配ってみるのはいかがでしょうか。

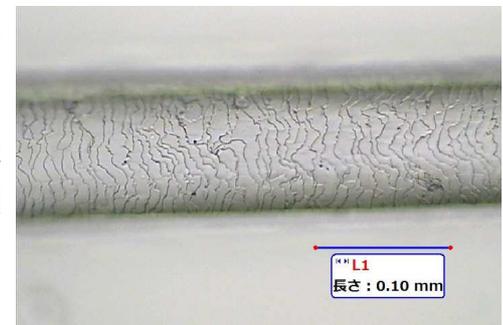


図4 スンプ法によるヒトの毛髪
キューティクルがみえる

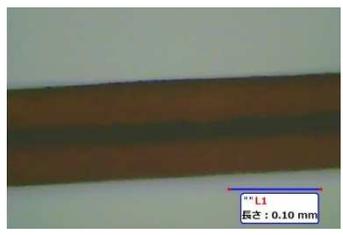


図1 ヒトの毛髪

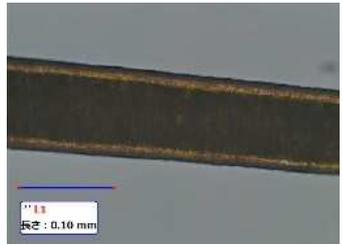


図2 イヌの毛髪

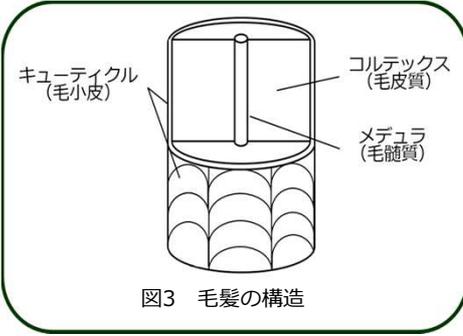


図3 毛髪の構造

梅雨はなぜ「つゆ」?

6月といえば梅雨ですね。私たちは何気なく6月の雨の多いこの時期を「梅雨」といいますが、なぜ梅の字を用いるのでしょうか。また、梅雨は「つゆ」と読みますが、なぜこのように読むのでしょうか。

「梅雨」は中国から伝えられた言葉とされています。もともと中国ではカビの発生しやすい時期の雨が「黴雨(ばいりう)」と呼ばれていましたが、黴(カビ)では印象が悪いことと、梅の実がなる時期であり、同じ読みである梅の字を当てはめて「梅雨」としたという説があります。

梅雨を「つゆ」と呼び始めたのは江戸時代からであるといわれています。雨の「露」にかけたものである説や、梅の実が熟し「漬ゆ(つゆ)」時期であるからという説があります。また、カビがよく発生することから、ものが悪くなるという意味の「ついで」から由来されたという説もあります。このように梅雨の語源には様々な説があり、まだはっきりとわかっていません。

また、梅雨のように漢字だけでは意味や由来がわからない言葉はたくさんあります。旧暦6月のことも別名「水無月」といいますが、水が無いという意味ではありません。「無」はいまの「の」に当たり、むしろ「水の月」という意味で、田んぼに水を引く時期であるから水無月といわれています。他の季節や時節を表す漢字にも、読んだだけでは由来がわからないような言葉があります。一度興味を持ってみてはいかがでしょうか。

本社
岡山市北区新屋敷町3-19-20
TEL 086-2241-8080
FAX 086-2241-8094

拠点
大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢



東洋産業株式会社

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)